

日蓮大聖人御書全集

おんころもならびにひとえごしよ

御衣並単衣御書

新版  
1310  
）  
1311

おんころもならびにひとえ（こしよ）  
御衣並単衣御書

けんじがんねん がつ にち さい ときけ  
建治元年（75） 9月28日 54歳 富木家

おんころも ぬの おんひとえ た そうら お  
御衣の布ならびに御単衣、給び候い了わんぬ。

せんびやくびく に もう ひと う たま おんころも  
鮮白比丘尼と申せし人は、生まれさせ給いて御衣をた

てまつりたりけり。 生長するほどに、次第にこの衣、大

になりけり。 後に尼とならせ給いければ、法衣となりけ

り。 ついに法華経の座にして記別をささずかる。 一切衆生

きけんによらい ほけきよう ぎ きべつ 授 いっさいしゆじよう  
喜見如来これなり。 また、法華経を説く人は、「柔和忍辱衣」

もひう かなら ころも  
と申して必ず衣あるべし。

もの種

もう

ひとつ

植

た

物だねと申すもの、一つなれどもうえぬれば多となり、

りゆう しょうすい

おおあめ

ひとつ

しょうか

たいか

ころも

竜は小水を多雨となし、人は小火を大火となす。衣

帷

ひとつ

ほけきよう

進

たま

かたびらは一つなれども、法華經にまいらせさせ給いぬれ

ほけきよう

もんじ

ろくまんきゆうせんさんびやくはちじゆうしじ

いちじ

いちぶつ

ば、法華經の文字は六万九千三百八十四字、一字は一仏な

ほとけ

さいせいはいしゆ

しんぷ

けんぽんおんじゆ

いのち

り。この仏は、再生敗種を心符とし、顕本遠寿をその寿と

じようじゆうぶつししよう

のど

いちじようみようぎよう

がんもく

ほとけ

し、常住仏性を咽喉とし、一乗妙行を眼目とせる仏

おうけ

しんぶつ

もう

さんじゆうにそうはちじつしゆこう

なり。「応化は真仏にあらず」と申して、三十二相八十種好

ほとけ

ほけきよう

もんじ

まこと

ほとけ

たま

の仏よりも法華經の文字こそ真の仏にてはわたらせ給

ほとけざいせ

ほとけ

しん

ひとつ

ほとけ

成

ひとつ

いて、仏在世に仏を信ぜし人は仏にならざる人もあり、

ほとけ めつご ほけきよう しん ひと ひと じようぶつ

仏の滅後に法華経を信ずる人は「一りとして成仏せざる

によらい きんげん

ことなけん」、如来の金言なり。

ころも

帷

著添

ほけきよう

読

この衣をつくりて、かたびらをきそえて法華経をよみて

そらら

にちれん

むかい

びく

ほけきよう

しろうじき

きんげん

候わば、日蓮は無戒の比丘なり、法華経は正直の金言な

どくじや

たま

吐

いらん

せんだん

出

きようきよう

り。毒蛇の珠をはき、伊蘭の梅檀をいだすがごとし。恐々

きんげん

謹言。

くがつにじゆうはちにち

九月二十八日

にちれん

かおう

日蓮

花押

ごへんじ

御返事